

令和3年度 第2回北関東救急看護研究会

【開催日】令和4年1月22日(土)

【時間】14時(16時終了予定)

【方法】オンライン

コロナ禍における家族ケアの現状と課題

【企画趣旨】

コロナ禍は約2年に及び、感染が終息せず、その間に感染者数や入院患者数、重症患者数の減少や増加を繰り返している。そのような中で臨床現場の看護師は、感染症の状況を見ながら最善の対応ができるよう取り組んでいる。組織の方針や、施設の環境要因により、面会を制限、あるいは中止をせざるを得ない場面も多い。面会が制限されることで、医療チームと家族の間でのコミュニケーションの機会が減少する、家族が患者の状態を十分理解する機会が減少するために、「こんなはずじゃなかった」、「こんなに状態が悪いと思わなかった」など、現状把握・認知の困難や不信感などに繋がるリスクが増大することもある。また、面会制限により、患者の孤独感が大きくなる、家族の不安が増大することに繋がることや、重要な治療上の決断などを電話など対面ではない場面で迫られるなど、面会制限による患者・家族の負担や不利益は非常に大きい。

また、救命センターやICUでは、救命困難である場合やエンドオブライフの段階にある患者もいる。そのような患者と家族には、共に過ごせるような時間はさらに重要となるため、エンドオブライフのプロセスにある患者への面会制限は患者と家族が共に過ごす貴重な時間を永遠に奪ってしまうリスクを孕んでいる。

新型コロナウイルス(COVID-19)における対応は、政策レベルでも学術的なエビデンスにおいても知見を蓄積・構築をしている段階にあるため、何が最善策となるか、現場での工夫や検討をしながら取り組んでいる。その中で、現在の課題やケアにおける工夫点などの情報を共有する機会とするとともに、明日からの現場でのケアに活かせるような方略を見出す一助となることを狙いとして、本テーマを企画した。



Northern Kanto
Emergency Nursing
Research group

プログラム

司会 中田 哲也 獨協医科大学病院

1. 会長挨拶

中村 美鈴 東京慈恵会医科大学医学部看護学科

2. 演者発表

座長 吉田 紀子 獨協医科大学病院

14 : 05 ~ 14 : 20 COVID-19 受け入れ病棟における家族ケアの現状と課題 (仮)

路川 恵利加
総合病院土浦協同病院

14 : 20 ~ 14 : 35 COVID-19 を受け入れていない病棟の立場から (仮)

中村 真依子
武蔵野赤十字病院

14 : 35 ~ 14 : 50 感染制御部門での立場から (仮)

小島 貴子
済生会宇都宮病院

14 : 50 ~ 15 : 20 家族ケアに関する講演 (予定)

立野 淳子
小倉記念病院

3. 全体討議 15 : 20 ~ 15 : 55

4. 副会長挨拶

谷島 雅子
自治医科大学附属病院